

カトレア

2019 Spring

115
令和元年

Cattleya

川内市医師会立市民病院



平成31年3月28日 第3回出前講座 東郷町楠元上公民館

CONTENTS

特集 足病変とフットケア外来について
地域医療連携室だよりvol.6
医師異動のお知らせ／新人職員紹介
NEWS／看護部だより「ひまわり」
身体に優しい健康レシピ
リレーエッセイ

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、急性期医療を推進し、安全で信頼される医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、信頼され満足される医療を目指します。
2. 質の高い急性期医療を推進し、高次救急医療の確立を目指します。
3. リハビリテーションを推進するとともに、回復期を含め、地域の医療関係機関と連携し、地域社会に貢献します。
4. 職員が互いに尊重しあう職場作りをめざし、チーム医療の充実に努めます。

患者さんの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 自分の病気について納得するまで十分な説明を受け、その上で検査や治療を選択すると共に医療機関を決定する権利があります。
3. 個人の情報は保護される権利があります。
4. 自分の診療内容について知る権利があります。

特集

足病変と フットケア外来 について



循環器内科 医師
宮内 栄治



川内市民病院に赴任して間もない頃、足病変のため大腿切断手術を控えた患者さんを立て続けに診療することとなりました。

大腿切断を控えているわけですので、すでに足部は壊疽しミイラ化しており、ミイラ化していない部分も細菌感染を伴っており、悪臭が漂っていました。大腿切断すると、切断後に歩行能力を取り戻す確率は0%と言われています。つまり、寝たきりになってしまうのです。

そのような患者さんが立て続けに?!ということに非常に驚いたのを覚えています。

このような事態を目の当たりにして初めて、川薩地区には足病変を正確に評価できる施設が少なく、ネットワークができてないため手遅れになっていることに気づきました。

その時、「**川薩地区の足病変をどげんかせんといかん!**」と心に誓ったのです。

時を同じくして、今後足病変と戦っていく同士と出会うのです。

糖尿病看護認定看護師の濱田知美看護師長です。川内市民病院の糖尿病ケアチームを率いており、素晴らしいリーダーシップでコメディカルスタッフをまとめていましたが、糖尿病ケアの活動は院内スタッフにもなかなか広まりませんでした。そんな状況であったわけですので、チーム一同は大変苦労していたことと思います。私も今までは、糖尿病ケアにあまり興味がありませんでしたが、濱田看護師長の「**フットケアを通して、川薩地区の糖尿病患者さんの足を救いたい!**」という燃えたぎるような熱意に心を揺さぶられ、糖尿病ケアチームへの協力を約束したのであります。

糖尿病ケアチームに循環器内科医である私が加わったわけですが、「**川薩地区の足病変をどげんかせんといかん!**」という気持ちを持った同士達が集ったわけですので、私はこの時を勝手に川内市民病院フットケアチームの発足と捉えていました。2017年12月のことです。

そうしてまずはフットケアチームの院内活動を活発にすることを第一ステップとしました。院内患者さんを対象としたフットケアです。そもそも何にもないところからの出発であり、あるのはやる気だけでした。泌尿器科の診察台を診療がない時に借用し患者さんを乗せ、巻き爪やたこ・うおの目の治療を行ったりもしました(今もしている?)。この診察台はフットケアを行うのにちょうど良い高さまで足をあげることができ、患者さんにも負担がほとんどないのです。

そのような工夫(苦労?)を重ねながらでありましたが、徐々に院内でのチームの認知度もあがり紹介も増えるようになり、2018年5月にはフットケア外来での患者さんの受け入れを行うことができるようになりました。





一方で、フットケアを実践していく中で、靴を含めた履物に対する指導が必要なことを痛感していました。巻き爪やたこ・うおの目をしっかりと処置しても、靴が足に合っていないと容易に再発することを目の当たりにしたからです。そこで、フットウェア(靴のことをかっこよく言ってます)を専門にする講師を招いて勉強会を行いました。そうしたところ、もともと歩行・歩様の専門家である理学療法士・作業療法士の心に火がつき、当院でも患者さんへフットウェアの指導をやっていこうという流れが生まれました。そして、その状況を講師の先生に伝えましたところ、月1回当院で診療を行っていただけることとなり、2018年7月にフットウェア外来がスタートしたのです。現在、講師の先生の知識・技を盗み、川内市民病院独自のフットウェア外来へ進歩していこうとしているところです。

ここまでは、主に川内市民病院の入院・通院患者さんが対象でありましたが、いよいよ対外的に活動を開始できる水準まで診療の質が上がってきたため、第二ステップとして医療機関・介護施設への告知を行うこととしました。足病に関する勉強会を繰り返し開催したのです。足病を持つ患者さんに出会う機会の多い医療従事者に、当院の取り組みを理解いただき、また一緒に知識・手技を共有することで多くの足病患者さんを軽症の時点で救うことができることに気づいていただいたのです。そのような活動が功を奏し、多数の医療機関との連携の機会が増えるようになり、早期の相談・紹介で多くの患者さんの足を救うことができるようになってきています。最近では、出水や鹿児島市内からも紹介していただけようになったことも追記したいと思います。



そして現在、いよいよ次のステップ、「**住民の皆さんへの啓蒙活動**」へと進んでいるところです。川薩地区では現在ようやく、患者さんが足病に気づいて医療機関を受診すれば、早期介入がなされるようになってきています。しかしながら、住民の多くの方が、足病に関しての知識が少なく、医療機関を受診するのが遅れています。そのため、まだまだ重症の状態でご来院の方が多いのです。そこで、住民の皆さんの知識向上を図るべく、市民公開講座を行うこととなりました。



6月1日(土)13時から薩摩川内市国際交流センターにて市民公開講座を開催予定です。テーマは「**足を切断することになるその前に**」で、治療と予防の観点から、多くの方に足病の理解を深めていきたいと思っています。当日は、ブースも充実していて、**血管年齢測定**や**フットウェア相談・フットケア相談などを実体験**できます。是非とも、家族・親戚に声をかけて、大人数で会場に押し掛けて欲しいと思っています。来場した方全員が満足できるものになるよう、フットケアチームを中心に病院をあげて準備していくつもりです。

並行して、チームでは自己研鑽も怠らないようにしています。より高いレベルでのフットケアを実践するため、日本フットケア学会認定のフットケア指導士の資格取得を目指していました。フットケア指導士は、臨床の現場で患者さんのフットケアを実践するだけでなく、フットケアに携わる医療スタッフに教育・指導し、フットケアの裾野を広げていくという使命を背負っています。そのため、資格試験の難度も高く、合格率は60%前後です。その難関の試験を突破し、今回**北薩地区初のフットケア指導士**が誕生しました。**黒武者看護師**であります。フットケアに対する熱い思いは濱田師長に負けないことは十分知っていましたが、今後は技術やリーダーシップ面でも濱田師長に追いついて、フットケアチームの次期リーダーへと成長していただきたいと勝手ながら望んでいます。

長々と書き連ねましたが、「川薩地区の足病変をどげんかせんといかん!」という思いをますます強く持ちながら、日々足病患者さんの診療を続けていきたいです。これまでも多くの足病患者さんとお会いしてきましたが、患者さんそれぞれが異なる病状であり、自らの知識不足・経験不足を痛感することも少なくないです。しかし、患者さんは目の前にいらっしゃるわけで、これまで通り、逃げることなくチーム一丸となって戦っていきます。そうして多くのことを患者さんに教わりながら、川内市民病院フットケアチームはさらに成長していくことと思っています。鹿児島で、いや九州で、**フットケアチームといえば、川内市民病院!**となることを夢見ています。協力いただける方、チームの一員になりたい方は遠慮なく、私たちフットケアチームに声をかけてください。来るものは全く拒みませんよ(笑)!!

**フットケアチーム
といえば、
川内市民病院!**



第7回市民公開講座のご案内

**川内市医師会立市民病院
第7回 市民公開講座**

**足を切断すること
になるその前に**

足の病気の
治療法・予防法
をお教えします!

参加費
無料

□ 手足が冷たい、しびれる、指が青白い
□ じっとしても手足が痛い
□ 歩くとき足をむきずる
□ 休み休みでなければ、歩き続けることができない etc

もしかしらば閉塞性動脈硬化症(足梗塞)かもしれません。重症化すると足の壊死を発生し、切断に至るおそれがあります。さらに心筋梗塞や脳梗塞、など致命的な合併症を引き起こすことが多いです。

そうなる前に足梗塞について専門スタッフの話を詳しくお聞きになりませんか?

6/1(土)
受付13:00~

定員/400名(先着順)
お事前のお申し込み、ご予約は不要です。

講演内容

第1部 14:00~14:40 「足のトラブルは人生を左右する
~足梗塞の怖さを知り、予防法・治療法を学ぶ~」
講師 宮内 栄治 (循環器内科医師)

第2部 14:50~15:10 「生涯自分の足で歩き続けるために
~足のセルフケア方法を教えます!~」

場所 薩摩川内市国際交流センター
コンベンションホール
〒995-0011 鹿児島県薩摩川内市天田町221-1 TEL:0996-22-7741

JR川内駅会場
シャトルバス
運行無料
5/27までにお電話にて
ご予約ください

要予約 12時30分発
13時30分発

川内市医師会立市民病院 広報経営企画委員会 協賛 株式会社アステム
〒995-0005 鹿児島県薩摩川内市4102-7
☎ 0996-22-1111 ☎ 0996-22-0511 ✉ info@sendaihp.jp
https://sendaihp.jp/

ブースのご案内

時間 【第一部】13時~14時
【第二部】15時15分~16時15分

先着順のご案内

ブース1 ABI検査(生理検査技師)
血管年齢測定/血流評価
・血管病を指摘されたことがある
・歩くと足が痛くなる、つる
・歩きづらいつと感
・足がよく冷える ※先着30名

ブース2 フットウェア相談(理学療法士)
履物の中敷き、歩き方
・靴の選び方がわからない
・靴が合わない
・糖尿病の方
※歩行解析装置による足圧測定体験もあります。

ブース3 フットケア相談(看護師)
まきづめ、タコ、魚の目
・水虫の方
・まきづめやその他つめでお悩みの方
・タコ、魚の目、外反母趾でお悩みの方
※1人10分程度のフットケア体験できます(先着60名)

ブース4 健康相談(看護師、理学療法士)
血圧測定/血糖測定
・糖尿病を指摘されたことがある方
・高血圧が心配な方

ブース5 栄養相談(管理栄養士)
試食サンプルプレゼント
・アレルギー食について
・糖尿病食について
・減塩指導

ブース6 在宅医療に関する相談(在宅医療センター)
・在宅医療でできること、手続きの仕方
・在宅介護でお困りの方
・足病変でお困りの方の在宅でのサポート体制を整えます

地域医療連携室だより vol.6

介護保険の予防給付について

平成12年(2000年)にスタートした介護保険制度は、もともとは高齢化が急速に進むなか、医療費の膨張を防ぐ意図のもと設計された制度でした。

しかしながら、当初の想定を超えるスピードで介護サービスの利用者が増加する事態に直面し、介護費用の大幅増を抑制するためにも制度の手直しが必要になりました。こうして「介護予防重視の姿勢」を理念のひとつに掲げた介護保険法の改正が、平成18年(2006年)4月に行われました。

これによって、高齢者が要介護状態となることから生じる介護費用の増大を抑制すべく、要介護認定の区分をそれまでの5区分(要介護1~5)から、新しく「要支援1・2」を加えた7区分とすると同時に、「要支援者(認定で要支援1・2に該当した方)」を対象とした「予防給付(介護予防サービス)」が、新たに提供されることになったのです。

(支給限度額) 予防給付は

要支援1	50,030円
要支援2	104,730円

介護予防サービスの利用にあたっては、地域包括支援センターに「介護予防ケアプラン」を作成してもらうときに、上記支給限度額をオーバーしないよう、利用回数や一回あたりの利用時間も注意して職員とよく相談しながら決めていくことが大切になります。



「地域包括支援センター」は、以下の三つを中心とした業務を行います。

- (1) 高齢者に関わる総合相談・地域ケア支援事業・権利擁護事業
- (2) 医療・福祉・保険・介護等に関する、包括的・継続的なケアマネジメント
- (3) 介護予防ケアマネジメント事業在宅

地域包括支援センター	永利町4107番地1	市総合福祉会館内	: 0996-24-3331
甌島圏域サブセンター	上甌事務所	里町里1900-2	: 09969-3-2880
甌島圏域サブセンター	下甌事務所	下甌町長浜1185-2	: 09969-5-1751

ちょこっとクイズ

問題：介護保険の予防給付におけるサービスにふくまれないものはどれでしょうか？

- ① 訪問サービス ② 通所サービス ③ 短期入所サービス ④ 居宅介護支援



介護保険の予防給付

◆川内市医師会立市民病院 外来診察日程 (担当医師一覧)

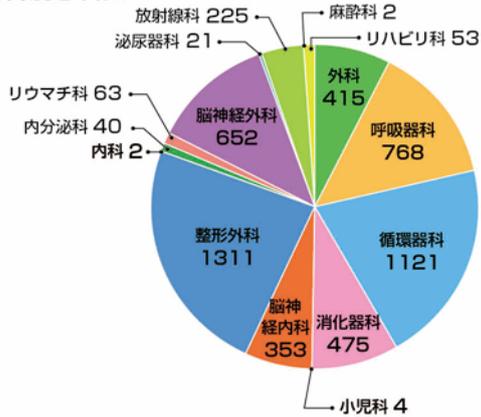
※ 5月のリウマチ科診察日は 10日・24日(金)、高血圧内科診察日は 13日(月) となります。
 ※ 当院は予約診療となっております。診療科の診察日をご確認の上、予約担当者へご連絡下さい。
 ※ 救急患者につきましては、土曜日でも平日同様に対応いたします。

診療科	日		月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	脳神経	能勢 裕久					能勢 裕久				金子 浩之	
	呼吸器		検査		(初)久保田真吾 (初)安田 俊介 (再)本川 郁代			検査	(初)久保田真吾 (初)本川 郁代 (再)安田 俊介			検査
	消化器	紙屋 康之 藤野 悠介					紙屋 康之 隈元 亮		紙屋 康之 隈元 亮			
	循環器	(初) 福岡 篤 (初再)新里拓郎			検査日		(初) 宮内栄治 (初再)新里拓郎			検査日		(初) 迫田 隆 (初再)新里拓郎
外科	(初)中嶋 俊博 (再)石部 良平			手術日		(初)中嶋 俊博 (再)石部 良平 (再)土持 雅昭			手術日		(初)中嶋 俊博 (再)石部 良平	
整形外科		手術日		神園 純一 坂元裕一郎			手術日		高野 純 佐久間大輔			手術日
脳神経外科	田貫 謙一郎 (手術日)			手術日			田貫 謙一郎 (脳ドック)			手術日		
放射線科	三木 徹生			三木 徹生			三木 徹生	検査	三木 徹生		三木 徹生	検査
リハビリ科	(再)石部 良平			(再)土持 雅昭			(初)土持 雅昭 (再)石部 良平	(再)本川 郁代	(再)石部 良平	(再)本川 郁代	(再)西澤 輝彦	
心臓血管外科	濱田 聡											
泌尿器科	大学 派遣医師											
内分泌科							有村 洋 (初診は15時から2名)					
リウマチ科											大坪 秀雄 (10日) 中島 悠 (24日)	
高血圧内科	大石 充											

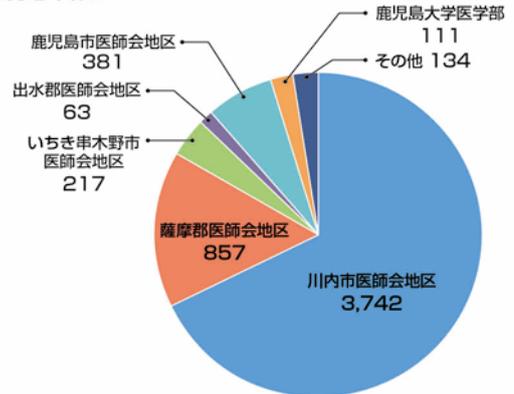
*外来受付時間 8:30~11:30

紹介実績 2018年度

診療科別患者数

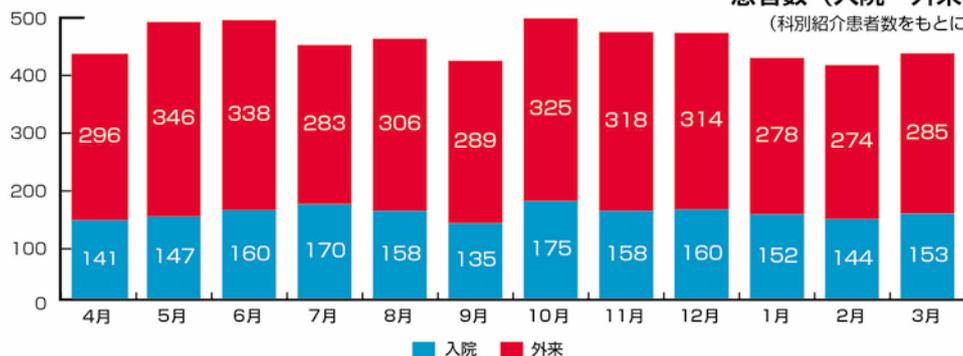


地域別患者数



患者数 (入院・外来)

(科別紹介患者数をもとに)



医師異動のお知らせ

4月より外来診療医師に異動がありました。



	退職医師	⇒	新任医師
循環器内科	有川 朋芳	⇒	福崎 篤
脳神経内科	篠原 和也	⇒	金子 浩之
呼吸器内科	末次 隆行	⇒	久保田 真吾
	中塩屋 二郎	⇒	安田 俊介
整形外科	中村 貴宏	⇒	坂元 裕一郎
	島ノ江 研斗	⇒	佐久間 大輔
消化器内科	牧野 智礼	⇒	紙屋 康之
	藤田 俊浩	⇒	藤野 悠介
リハビリテーション科			西澤 輝彦

8名の外来医師が異動になり、毎週金曜日リハビリテーション科に、西澤輝彦医師が着任しました。また、消化器内科の診療日が月・水・金から月・水・木へ変更になっております。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

新人紹介

1月～3月までに私達の仲間となったスタッフをご紹介します。どうぞよろしくお願いします。



川村 秀尚
外科
医師

H31年2月より本院に入職いたしました。私はもともと鹿児島大学、第2外科に所属しておりました。主に鹿児島市内の病院に勤務致しておりました。退局後、串木野また宮崎の病院を経まして今回こちらに御世話になることとなりました次第です。まだまだ病院に慣れていくには時間を要し、御迷惑をお掛けすることとは思いますが努力して参りますのでどうか宜しくお願ひ申し上げます。

新人さん
いらっしゃ〜い



木佐貫 聡子
医事業務課
外来医事

1月より医療事務として働かせて頂いております。1日でも早く仕事を覚え、皆様のご迷惑にならぬよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



濱崎 圭子
院内保育所
保育士

1月から入職致しました。子ども達、保護者の皆様のお役に立てるようにがんばります。よろしくお願い致します。



徳田 英未里
回復リハビリ病棟
病棟クラーク

1月より入職致しました。病院で働かせて頂くのは初めてなので、たくさんご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く仕事を覚えて皆様のお役に立てるよう一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



内山 正美
地域医療連携室
看護師
ソーシャルワーカー

2月より地域医療連携室で相談員として勤務させて頂いております。ソーシャルワーカーとしての仕事は初めてです。とても責任のある仕事だと日々感じておりますが、できるだけ早く仕事を覚え、相談員としての役目を勤められるように頑張りたいと思っております。どうぞご指導をよろしくお願い致します。



諏訪 麻衣
4階西病棟
看護助手

3月より看護助手として入職致しました。分からない事が多く、皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く仕事を覚えられよう頑張りたいと思っております。宜しくお願い致します。



堀澤 歩
薬剤部
助手

4月より薬剤部助手として働かせて頂いております。慣れないことばかりでご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張りますのでご指導のほど、よろしくお願い致します。

第2回出前講座



2月8日(金)10時より可愛地区コミュニティーセンターにて第2回出前講座を開催し、当院副院長の田實謙一郎医師が「脳卒中ゼロを目指して」というテーマで講演しました。会場には近隣住民約70名の方がご参加され、「とても分かり易い講演でした。ありがとうございました。」とご感想をいただきました。

次回も、当院の出前講座に多くのご参加をお待ちしております。

豆まき



2月1日(金)ちゅうりっぷ園で節分の豆まきが行われました。節分はもともと季節の変わり目のことで、江戸時代以降伝統行事として行われています。ちゅうりっぷ園ではそれぞれの伝統行事の意味を知り、親しみを持ってもらうために毎年行っています。豆まきで邪気を払い福を呼び込むことができた園児たちは、今年も良い一年となりそうです。

NEWS

Sendai Medical
Association Hospital
January- March



今月のスマイル

サービス向上研修会



1月～3月の期間に計4回、当院会議室・実習棟に於いてサービス向上委員会主催の研修会が行われました。今回は、「病・医院における患者接遇」をテーマに、言葉使いを中心とする医療現場での接遇について大切なことや注意すべきことについて約1時間の研修を行いました。

職場体験



2月21日(木)に川内中央中学校2年生男子2名、女子2名の看護部職場体験がありました。医師・看護師・理学療法士を目指していると目を輝かせながら目標を語り、実際の患者さんとの関わりなど、看護体験を通して貴重な体験や見学ができたことに大変感動していました。将来の進路や職業の実現に役立ててもらいたいと思います。



第3回出前講座



3月28日(木)10時より東郷町楠元上公民館にて第3回出前講座を開催し、当院総合リハビリテーション部の長嶺英博部長が「転ばぬ先のロコモ体操」と題し、健康寿命を延ばす為の生活習慣や体操などについて講演しました。会場には近隣住民約20名の方がご参加されました。

次回も、当院出前講座に多くご参加いただきますようお願い申し上げます。

ちゅうりっぷ園卒園式



3月23日(土)、院内保育所にて第25回保育証書授与式が行われ、たくさんの思い出を胸に8名の園児が卒園しました。みんなで合唱した「BELIEVE」の歌詞にもあった「いま未来の扉をあける時、悲しみや苦しみがいつの日か喜びにかわるだろう」という言葉の通り、4月からの小学校生活に希望をもって羽ばたいてほしいと思います。



看護部だより

ひまわり

Vol.58



ミニナラティブ

地域包括ケア病棟 看護師 久保あゆみ

Tさんは奥さんと二人暮らしで、今回腰椎の骨折で初めての入院となりました。Tさんは骨折がなかなかよくなり、リハビリも端坐位をとるのが難しい状況で、今後、奥さんと二人暮らしの自宅に帰れるか、多職種間で話し合いをしました。Tさんには子供さん達がありますが、遠方でなかなか帰省していないとのことで、夫婦二人だけで暮らしてきた背景があります。介護保険などの社会資源も夫婦共にサービスを利用していませんでした。

子供さんに現状を知ってもらう必要があると考え、ソーシャルワーカーから連絡をとってもらいました。娘さんが帰省するタイミングをはかり、医師より現状の説明を行いました。また、奥さんの体調面も優れず、認知面での不安があることも伝えました。娘さんも現状を理解され、Tさんだけでなく、奥さんにも介護保険を導入することになりました。

その後、Tさんは施設へ退院されました。私はこの事例を通し、患者だけではなく、家族の背景にも目を向け、退院後の生活を想像した看護を行う重要性を学ぶことができました。



第43回

身体に優しい健康レシピ



「あさりと春野菜のワイン蒸し」

エネルギー：76kcal、たんぱく質：4.9g、脂質：3.5g、食塩 0.8g/1人分

作り方

- ①あさりは3%の塩水で砂抜きをしておきます。その後よく洗います。
※スーパー等で購入した砂抜きあさりも、調理前に一度砂抜きされる事をおすすめします。
- ②菜の花、筍、グリーンアスパラガスは食べやすい大きさにカット。ニンニクはみじん切りにします。
- ③フライパンにオリーブオイルとニンニクを入れて火にかけます。
(ニンニクは焦げやすいので注意してください。)
- ④ニンニクの香りが出てきたら、あさりと筍を入れてワインを注ぎ、蓋をします。
- ⑤あさりの口が開いたら、菜の花とグリーンアスパラを入れ、煮汁を含ませるように軽く混ぜます。
- ⑥菜の花とグリーンアスパラに火が通ったら塩を加え、火を止めます。
- ⑦器に盛り、仕上げに粗挽きコショウを振って出来上がりです。



材料(4人分)

あさり(殻つき) ……………	350g(1P)
菜の花 ……………	150g
筍(下処理後) ……………	100g
グリーンアスパラガス ……	3~5本
ニンニク ……………	2片
オリーブオイル ……………	大さじ1杯
白ワイン ……………	大さじ4杯
塩 ……………	少々
粗挽きコショウ ……………	少々<鍋つゆ>

春野菜の栄養

ひと足早い春の訪れを知らせてくれる「菜の花」は独特の苦みを持つ花野菜の代表です。

βカロテンが豊富で、カリウムやカルシウム、マグネシウム、鉄分、ビタミンCも豊富に含まれています。

βカロテンは、抗酸化作用や免疫を強化する働きがあり、季節の変わり目など体調を崩しやすい季節にはおすすめです。人参やほうれん草、南瓜などの緑黄色野菜に多く含まれる「脂溶性ビタミン」なので脂質と合わせて取る事で効率よく摂取出来ます。「あさり」はカルシウムや鉄、ビタミンB12などを含み、貧血を予防する効果があります。貧血予防に欠かせない鉄分の吸収に必要な栄養素がビタミンCです。春キャベツや新ジャガイモ、えんどう豆などの春野菜には、ビタミンCが豊富な野菜が多くみられます。「たけのこ」は、食物繊維やカリウムを含み、グルタミン酸やアスパラギン酸などのアミノ酸も豊富に含まれるので疲労回復にも期待できます。

今回は「菜の花」を使用していますが、出回る時期も短いため、他の春野菜や比較的年中出回っている「豆苗」や「青梗菜」など上手に利用されてみてはいかがでしょうか？

味付けは白ワインと塩、粗挽きコショウとシンプルですが、「あさり」の旨味成分が春野菜に滲みる事で減塩効果もあり美味しく頂けます。是非、御賞味下さい。

栄養管理部 山田 真由美

リレーエッセイ

私の武器

4階東病棟
看護師

磯口 玲緒奈

私は、鹿児島県大隅半島の錦江町という町の出身です。地元を卒業し、鹿屋高校へ進学して無事卒業。その後神村学園にて看護師免許を取得しました。神村に進学してから今日まで、初対面の方に必ずと言っていいほどよく言われる言葉があります。「すごい鹿児島弁だね。」私としては標準語で話しているつもりでも、ふとした瞬間にぼろっと出てしまっているようです。地元を離れてからは、言葉のイントネーションを指摘されることが多く、自分ではコンプレックスに感じていました。

平成30年4月から、市民病院で看護師として働くようになりました。入職して間もないある日、デイルームで叫んでいる高齢女性の患者さんがおり、先輩方は内容が分からないと困っている様子でした。女性の言葉を先輩方へ伝えると、先輩たちだけでなく患者さんからも感謝されました。鹿児島弁を理解出来るのは、地元では普通のこと。で、地元を離れてからは「可笑しなこと。だったので、こんな風に役に立つ事もあるのだと思いました。この出来事があったから、鹿児島弁は私の武器です。高齢の患者さんに対しては敬意を払いつつ鹿児島弁を織り交ぜて話すようにしています。武器を適度に使いながら、親しみのある看護師でありたいと思っています。